

人文学学位プログラム（博士前期課程）

Master's Program in Humanities

- 修士（文学）
- Master of Arts in Humanities

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人文学の研究・教育を取り巻く環境の変化及びグローバル化に伴う社会の変化に対応するため、哲学、倫理学、宗教学、歴史学、人類学、文学、言語学、文化学、英語教育学などの人文学諸分野における優れた専門的知識を身に付けると共に、地球規模の新たな問題の発見と解決をめざし、専門の異なる人々と共同して問題解決に貢献できる研究能力及び教育能力を兼ね備えた研究者、大学教員となる博士後期課程への進学を目指す者を養成する。

養成する人材像	人文学諸分野に関する専門的知識のみならず関連する分野に関する知識も身に付け、学際的なアプローチにより研究課題に取り組む、高い研究能力を有するとともに、現代の諸問題を解決するための広い視野を有し、そのような研究成果を社会に還元することのできる人材。
修了後の進路	博士後期課程への進学。それ以外に、中学校・高等学校教員、官公庁・自治体職員、博物館学芸員、学術出版業、教育関連会社、NGO・NPO など。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士前期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、修士（文学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の活用力：高度な知識を社会に役立てる能力	①研究等を通じて知を社会に役立てた（または役立てようとしている）か ②幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	大学院共通科目、修士論文合同演習、研究法入門、研究指導科目、講義科目、修士論文作成、中間発表、研究会発表、学会発表、ポスター発表等
	2. マネジメント能力：広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	①大きな課題に対して計画的に対応することができるか ②複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	大学院共通科目、研究指導科目、演習科目、他研究室と共同の演習科目、達成度自己点検、インターンシップ科目、修士論文作成、中間発表等
	3. コミュニケーション能力：専門知識を的確に分かり易く伝える能力	①研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ②研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	大学院共通科目、修士論文合同演習、研究指導科目、演習科目、研究発表に関する科目、中間発表、研究会発表、学会発表、ポスター発表等
	4. チームワーク力：チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	①チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ②自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	大学院共通科目、インターンシップ科目、研究指導科目、演習科目、他研究室と共同の演習科目、TA 経験、チームでのコンテスト参加、学会での質問、セミナーでの質問等
	5. 国際性：国際社会に貢献する意識	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ②国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	大学院共通科目（国際性養成科目群）、人文社会科学のためのグラントライティング入門、語学力養成科目、外国語の講義科目、外国語の演習科目、国際的な活動を伴う科目、外国語文献を利用した修士論文作成、国外での活動経験、留学生との交流、TOEIC 得点等
	6. 研究力：人文学分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	①人文学分野における研究課題を設定する能力を身につけたか ②人文学分野における研究計画を遂行する能力を身につけたか	学術院共通専門基盤科目、修士論文合同演習、研究法入門、演習科目、修士論文作成、研究会発表、学会発表、ポスター発表等

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	7. 専門知識：人文学分野における高度な専門知識と運用能力	①人文学分野における高度な専門知識を身につけたか ②人文学分野における専門知識の運用能力を身につけたか	学術院共通専門基盤科目、修士論文合同演習、専門基礎科目、講義科目、演習科目、修士論文作成（口述試験を含む）、中間発表、研究会発表、学会発表、ポスター発表等
	8. 倫理観：人文学分野の基礎的研究能力を有する人材にふさわしい倫理観と倫理的知識	①人文学分野において必要な倫理観を身につけたか ②人文学分野において必要な倫理的知識を身につけたか	大学院共通科目（生命・環境・研究倫理科目群）、学術院共通専門基盤科目、研究法入門、演習科目、研究指導、修士論文（口述試験を含む）、中間発表、INFOSS 情報倫理、APRIN e-learning 等
	9. 思考力：専門分野に関する知識をもとに物事を論理的に考え、結論を導き出す能力	専門分野に関する知識をもとに物事を論理的に考え、結論を導き出す能力を身につけたか	演習科目、修士論文作成、研究会発表、学会発表、ポスター発表等
	10. 総合力：研究成果を関連分野の中に位置づけ、応用、実践する能力	研究成果を関連分野の中に位置づけ、応用、実践する能力を身につけたか	大学院共通科目、学術院専門基盤科目、演習科目、他学位プログラム科目、研究指導等
学修成果の評価に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> - 学修成果の評価は、学位授与方針に基づくコンピテンスの修得状況を「達成度評価表（ルーブリック）」により、各学期末、ならびに修士論文提出時点等に確認・評価することで行う。 - 1年次での修士論文指導に関わるゼミにおける指導を経て、2年次秋学期に修士論文構想の発表を行い、ルーブリックに基づき第一段階達成度審査を行い、主査・副査候補者や関連教員による審査を行う。 - 修士論文提出後、主査および副査2名以上で構成される学位論文審査委員会において公開審査ならびに、ルーブリックに基づき第2段階達成度審査を行う。 		
学位論文に関する評価の基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマが適切に設定され、意義・位置づけが明確であること。 2. 関連する先行研究を網羅し、批判的検討を加えていること。 3. 研究方法が明確に提示されていること。 4. 論の構成が適切で、実証的、論理的であること。 5. 新たな学術的な知見が含まれること。 6. 学位論文として適切な形式を具え、研究倫理が順守されていること。 <p>修士論文の審査は、主査1名、副査2名以上で構成される審査委員会を設けて公開で行う。</p>		

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

哲学、倫理学、宗教学、歴史学、人類学、文学、言語学、文化学、英語教育学の9領域を横断する人文学の研究力・専門知識・倫理観とともに、人文社会科学の幅広い基礎的素養、人文社会ビジネスにわたる広い視野、社会の多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。

<p>教育課程の編成方針</p>	<p>学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、大学院共通科目、学術院共通専門基盤科目、研究群共通科目から2単位を選択必修とする。このほか、研究群共通科目のうち「修士論文合同演習」、「研究法入門または Academic Writing and Research Ethics」の2単位を必修とする。研究指導においては、複眼的視野をもった研究能力の育成のために複数指導体制（必要に応じて他学位プログラムの教員も参画）とする。具体的な履修科目や副指導教員の配置は、個々の学生の研究計画やキャリアプラン等を踏まえて決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大学院共通科目、修士論文合同演習、研究法入門または Academic Writing and Research Ethics などにより、高度な知識を社会に役立てる能力を身に付ける。 - 大学院共通科目、人文社会科学のためのインターンシップ（1）（2）などにより、広い視野に立ち課題に的確に対応する能力を身に付ける。 - 大学院共通科目、修士論文合同演習などにより、専門知識を的確に分かり易く伝える能力を身に付ける。 - 大学院共通科目、人文社会科学のためのインターンシップ（1）（2）などにより、チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力を身に付ける。 - 大学院共通科目、人文社会科学のためのグラントライティング入門などにより、国際社会に貢献する意識を身に付ける。 - 学術院共通専門基盤科目、修士論文合同演習、研究法入門または Academic Writing and Research Ethics、専門科目（演習科目）、修士論文作成、研究会発表などにより、人文社会科学分野及び人文学分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力を身に付ける。 - 学術院共通専門基盤科目、修士論文合同演習、専門基礎科目、専門科目（講義科目、演習科目）、修士論文作成、研究会発表などにより、人文社会科学分野及び人文学分野における高度な専門知識と運用能力を身に付ける。 - 大学院共通科目（生命・環境・研究倫理科目群）、学術院共通専門基盤科目、研究法入門または Academic Writing and Research Ethics、専門科目（演習科目）、研究指導などにより、人文社会科学分野及び人文学分野の基礎的研究能力を有する人材にふさわしい倫理観と倫理的知識を身に付ける。 - 専門科目（演習科目）、修士論文作成、研究会発表などにより、専門分野に関する知識をもとに物事を論理的に考え、結論を導き出す能力を身に付ける。 - 専門科目（演習科目）、他学位プログラム科目、研究指導などにより、研究成果を関連分野の中に位置づけ、応用、実践する能力を身に付ける。
------------------	---

<p>学修の方法 特色的な教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 入学時、加えて年度当初に、学生の個々の研究テーマに基づき「履修計画」および指導体制を設定し、授業履修、研究指導を行う。 - 1年次に「研究法入門」の履修を通じて、研究倫理や基本的な研究手法を学び、汎用コンピテンス「知の活用力」、専門コンピテンス「研究力」、「倫理観」を身に付ける。また、入学時の早い段階で、その他の研究群共通科目、学術院共通専門基盤科目、大学院共通科目を含む基礎科目の履修を通じて、汎用コンピテンス「知の活用力」、「マネジメント能力」、「コミュニケーション能力」、「チームワーク力」、「国際性」を身に付ける。 - 主に1年次に専門基礎科目の履修を通じて、それぞれの専門の基礎的な知識を学び、専門コンピテンス「専門知識」などを身に付ける。 - 主に2年次に専門科目（講義科目、演習科目）の履修を通じて、研究に必要な高度な専門知識とその運用を学び、汎用コンピテンス「知の活用力」、専門コンピテンス「研究力」、「専門知識」、「思考力」などを身に付ける。また、専門科目（演習科目）、研究指導を中心に、汎用コンピテンス「マネジメント能力」、「コミュニケーション能力」、「チームワーク力」、専門コンピテンス「倫理観」、「総合力」を身に付ける。
--------------------------------	--

入学者受入れの方針 / Admission Policy

<p>求める人材</p>	<p>人文学諸分野への強い関心、研究課題に真摯に取り組む情熱、研究に必要な基礎的知識、語学力、論理的思考力、論述力を持ち、研究成果を社会に還元する意欲を持つ人材を求める。</p>
<p>入学者選抜方針</p>	<p>入学者の選抜にあたっては、一般入試、推薦入試などの入学者選抜方式によって多様な入学志願者に対応するとともに、募集人員を分割し、同一年度に複数回の入学試験を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 一般入試では、専門科目の筆記試験、及び口述試験を実施し、総合的に判定する。専門科目は、出願時に申し出た哲学・思想、歴史・人類学、文学、言語学、現代文化学、英語教育学など人文学に関係する分野から1つを選択し、外国語（1カ国語）で書かれた専門文献を使った設問を含む出題を行い、人文学諸分野の研究に必要な基礎的知識、論理的思考力、研究しようとしている分野の専門的知識、研究に必要な語学力を判定する。口述試験は、卒業論文（ないしはそれに準ずる論文）や研究計画書等の提出書類を参考とし、志願者の基礎的研究能力、研究に対する関心・情熱・適性、研究を通して社会に貢献しようとする意欲、研究しようとしている分野の専門的知識に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。提出書類のうち、卒業論文（ないしはそれに準ずる論文）により、専門分野に関する論述力を判定する。 - 推薦入試では、小論文の筆記試験、及び口述試験を実施し、総合的に判定する。推薦入試は、学士課程等において志願者を指導し、その諸能力や性格、資質などを知悉する教員から、人文学諸分野の研究に必要な基礎的知識や論理的思考力をすでに身に付けているとして推薦された者を対象としている。このため、専門科目の筆記試験は行わず、修士論文の執筆を進めるのに十分な論理的思考力、論述力、語学力があるかどうかを判定するために、外国語（1カ国語）で書かれた専門文献を読ませ、それに基づいて論述させる小論文の筆記試験を行う。口述試験は、推薦書および研究計画書を参考とし、専門分野の基礎的知識と研究遂行能力、研究しようとしている分野の専門的知識を確認し、研究に対する関心・情熱・適性、研究を通して社会に貢献しようとする意欲に加え、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力なども判定する。

学修支援体制 / Learning Support Framework

<p>学修支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 学修の達成度を把握するため、すべての院生に対し学期毎にコンピテンス達成度評価表の作成・提出を義務付けている。指導教員は、院生から提出されたコンピテンス達成度評価表をもとに個別面接を実施し、汎用コンピテンスと専門コンピテンスの達成状況を確認しながら効果的な学修の進め方について指導を行っている。 - 「研究法入門」において、ライティングサポートやプレゼンテーション指導を行っている。さらに論文執筆のために必要なアプリケーションの使い方、辞書の使い方、引用の仕方などの指導も行っている。 - 履修規定等に履修モデルを明示し、段階的かつ効果的な学修が達成できるよう工夫している。 - 論文提出に到るスケジュールを明示し、中間発表（ヒアリング）、最終発表会（公開審査）では、下級生も参加し、自身の研究や論文執筆の参考としている。 - 院生は毎年度初めに主指導教員と面談の上、研究計画書を作成し提出している。その後も、主指導教員や関連する専門分野の教員と随時面談し、学位論文の作成に活かしている。 - 年度末に開催される修士論文合同演習に一年生の院生全員を参加させ、その年度の優れた修士論文についての研究発表を聴講させ、自身の修士論文執筆に活かすよう指導している。 - 優れた修士論文を執筆した院生を修士論文合同演習で発表させ、特に優れた発表を表彰している。 - 一部のサブプログラム（SP）では、学会参加（研究発表）費用支援、他大学図書館雑誌論文コピー・図書貸借費用支援、外国語での発表（論文、口頭発表）原稿の語学支援（校閲）等を行っている。 - 一部の SP では、学内雑誌に卒業論文を投稿するための修正指導を行っている。 - 学振など外部資金による研究支援の申請を推奨し、主指導教員が申請書作成に当たってアドバイスを与えている - 各教員が実施する一部の授業では、国際会議に投稿するための英語アブストラクトの書き方、学術雑誌に投稿するための論文執筆指導を行っている。 - 学生と教員による「大学院懇談会」を開催し、学生からの様々な要望を受けとめたうえで、学修環境や学生生活の支援を行っている。 - researchmap への研究業績の登録を推奨している。
<p>学生同士の交流機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 修士論文執筆に関わる科目（ゼミ）において、院生同士の研究上の討論を行い、各々の研究を深化させている。 - 院生主体の研究会や読書会が開催され、院生同士の研究交流を深めている。 - 一部の SP では、院生主体で運営、出版する雑誌の編集・刊行・配布を通じて、学生たちが自ら話し合いを実践している。 - 一部の SP では、学類生と院生合同の実習に際して、学類生指導の補助的な役割を通じて交流を深めている。 - 一部の SP では、院生主体のレクリエーションを開催し、院生同士の交流を深めている。 - チューター制度を中心として、留学生と日本人院生との交流を深め、日常的にも学生同士が協力し合いながら、安心して研究に取り組める環境を形成している。

教員との交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 新年度オリエンテーションを実施し、新入生を含めた院生と教員との懇談を行っている。 - 年間を通しての指導教員、副指導教員をはじめとする教員と院生との面談を随時行い、指導の充実を図っている。 - 学生と教員による「大学院懇談会」を開催し、学生からの様々な要望を受けとめたうえで、学修環境や学生生活の支援を行っている。 - 一部の SP では、学生選出委員と教員選出委員によるレクリエーション実行委員会を組織し、あらゆる枠組みのもとで、学生と教員の交流を図るより有効な機会の創出を検討している。 - 一部の SP では、学生の修了後の進路選択に役立てるため、研究職や専門職に就職した修了生や博士後期課程進学者などを講師とした公開講座を年に複数回開催し、学生、修了生及び教員による交流の場を設けている。
-----------------	--

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 大学院担当教員の資格認定にあたっては、定められた基準と手続きにしたがって研究業績及び教育業績を精査し、十分な資質と能力を備えた教員を適切な担当業務（研究指導、研究指導補助、授業担当）に配置している。
- 授業科目のシラバス作成にあたっては、すべての科目のシラバスが適切に作成されているかをチェックシートを用いて確認し、教育の質の保証と改善に役立てている。
- 学修の達成度を把握するため、すべての所属学生に対し学期毎にコンピテンス達成度評価表の作成・提出を義務付け、個別指導を行っている。
- 複数教員が参加する論文指導ゼミや博士論文構想発表会を開催し、主指導・副指導教員以外の教員からの意見も得ることが出来るようにしている。
- 授業評価アンケートを実施し、その回答から授業計画、授業運営に関して改善を行っている。
- 各 SP の運営委員会、カリキュラム委員会等において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証する。
- 教育成果の可視化としては、口頭発表・ポスター発表・論文発表などの計画的な研究遂行を指導している。
- TA や RA 制度を活用し、教育・研究補助業務を通じて院生の教育・研究力向上とキャリア意識の醸成を図っている。